

釣船寺たより

発行所 釣船寺
〒300-0641
茨城県稲敷市
浮島3583-1
029-840-7778

暑中お見舞い申し上げます

毎年、どこかの御宅が新盆を迎えられるのですが、今年はお盆にたくさんの方の命が失われてしまったから、たくさんのお家で新盆を営まれることでしょうか。

被災地では、震災後初めてのお盆を迎えようとしています。あまりの被害の大きさに復興は遅々として進みませんが、全ての人が仏祖のご加護のもと一日も早く、もとの生活に戻れますことを心からお祈りいたします。

八日は施食会!

施食会は、以前は「施餓鬼会」と呼んでいましたが、「餓鬼」という言葉は、差別用語であるため、現在では「施食会」というようになりまし。本堂中央の施食棚に浄水、洗米、

茄子ときゅうりを刻んだ供物、生菜、乾菜等を供えます。読経、焼香の追善供養を行います。

現在では、死霊への恐怖は日本人の心の底に流れていると思われ、しきたりとして残っている追善供養です。

大施食会では、施食棚の中央に三界万霊牌が安置されます。施食会の主役は、三界の万霊です。普段は供養されることのない動物や虫、魚、鳥など万霊が、五如来様の御加護で慰霊の法要を受けます。この追善供養の功德がめぐりめぐって、新亡や先祖の供養にもなりますから、施食会はスケールの大きな供養とも言えるのです。



お盆

今日の「お盆」は、ご先祖様の御霊を供養する行事で、亡くなった方やご先祖様が家に帰り、その期間を家族と一緒に過ごすという、情緒豊かな伝統行事です。仏教では「盂蘭盆会」と言います。

「盆」という言葉は、サンスクリット語で「逆さ吊りの苦しみ」の意の「ウツランバナ」を音写した「盂蘭盆」からとされています。しかし最近では、古代イランの言語で「靈魂」を表す「ウルヴァン」から「盂蘭盆」となった、という説が有力となっています。

その起源にも諸説ありましたが、最近では中央アジアにおける農耕儀礼を起源として、次第に先祖供養の儀礼へと変遷し、日本に伝わるまでに仏教の教えと混ざり合い、今日の「お盆」という行事になった、とされています。

日本では六五七年に宮中で初めて行われた記述があり、ご先祖様のみならず、生きとし生けるものすべてに供養を施し、幸福を願う国民的行事として定着しました。お盆の時期は、一般に七月または八月の十三日、十五日の三日間が中心とされています。

お迎えとお送り

お迎えは十三日の夕方から夜にかけて、お墓や家の玄関先などでご先祖様のみ霊をお迎えする「迎え火」を焚きます。

ご先祖様は、迎え火の明かりを頼りに、家族のもとへお戻りになります。そしてその灯をみ霊への目印として盆棚に移します。

お盆の間は、ご先祖様がそこにいるかのようにおもてなしをします。そして、十五日の夕方か、十六日の午前中にみ霊をお送りします。

お迎えの時と同じように、玄関先で火を焚いたり、灯籠を流したりします。



盆供養料のご納付をお願いします。墓参の折、郵便振込でも結構です。